

2. 琵琶湖および河川の水生生物の生息状況調査費

1) 平成6年度水生生物生息状況調査の補完調査

井出充彦・山中 治・吉岡 剛

【背景】平成6年度の琵琶湖および河川の水生生物の生息状況調査では滋賀県下に生息しているとされる70種の魚類、7種の甲殻類(エビ・カニ類のみ)のうち、魚類64種、甲殻類6種の生息が確認されたが、ヤマメ、カワバタモロコ、アオウオ、カワヒガイ、ニッポンバラタナゴ、タンカイザリガニが未確認であった。

【目的】平成6年度調査で未確認であった魚類、甲殻類のうち、滋賀県下ではすでに絶滅したと考えられるアオウオ、ニッポンバラタナゴ、アユモドキを除く4種について生息を確認することを目的に、主に春期に採集調査を行った。

- 【成果概要】
1. ヤマメ：滋賀県では唯一日本海側へ流れる北川の支流天増川および寒風川においてエレクトリック・ショッカーを使用し採捕を試みた。その結果、天増川では採捕された合計18尾のサケ科魚類のうち8尾がイワナで、9尾がアマゴと比較して朱点のないヤマメであった。残る1尾が側線上のみに薄い朱点が認められ、アマゴとの交雑個体と思われた。寒風川ではヤマメが20尾、アマゴが4尾、両種の交雑個体と思われるものが2尾採捕された。
 2. カワバタモロコ：文献により生息している可能性の高い野洲川中流近辺のため池、小河川を調査対象とした。採集方法はビンづけ、タモ等を用いた。調査場所は農業用水路を含む5河川10地点、および13ため池である。その結果、生息が確認されたのは2ため池のみであった。
 3. カワヒガイ：琵琶湖にはビワヒガイ、アブラヒガイが生息しているが、文献によるとカワヒガイが琵琶湖流入河川にも生息しているとのことである。調査地点は琵琶湖北湖に注ぐ合計11の中小河川(支流を含む)の主に中下流域で、エレクトリック・ショッカーを用い採捕を試みた。その結果、大浦川支流八田部川、余呉川中流、天野川下流ではヒガイ類が採捕できたが、全てビワヒガイと同定され、カワヒガイは確認できなかった。
 4. タンカイザリガニ：過去に放流され唯一定着した今津町淡海湖(処女湖)において、かご網、タモ等により採捕を試みたところ、合計5尾が採捕された。

【成果の活用面・留意点】水域の現状と問題点を把握するとともに、水域の生態系変化の指標とし、今後の水産施策に反映させる。

表1 補完調査で生息の確認された魚類・甲殻類(目視含む)

種名	中小河川 (天増川・寒風川を含む)	ため池等	淡海湖
アユ	○		
イワナ	○		○
ニジマス	○		
ヤマメ	○		
アマゴ	○		
サケ科稚魚	○		
カワムツ	○		
オイカワ	○		
カワバタモロコ		○	
ウグイ	○		
アブラハヤ	○		
タカハヤ	○		
タモロコ	○	○	
ホンモロコ			○
ビワヒガイ	○		
カマツカ	○		
ゼゼラ	○		
イトモロコ	○		
コイ		○	
フナ類	○	○	○
ヤリタナゴ	○		
アブラボテ	○		
タイリクバラタナゴ	○		
ドジョウ	○		
スジシマドジョウ	○		
シマドジョウ	○		
ホトケドジョウ	○		
アカザ	○		
メダカ	○	○	
オオクチバス	○		
ブルーギル	○		
ドンコ	○		
トウヨシノボリ	○		
オオヨシノボリ	○		
ヌマチチブ	○		
カジカ	○		
ウツセミカジカ	○		
スジエビ	○		
タンカイザリガニ			○
アメリカザリガニ	○	○	
サワガニ	○		

使用漁具：エレクトリック・ショッカー、ビンづけ、タモ、かご網等